

地域環境学ネットワークの活動スケジュール

2010 年度

設立シンポジウムを開催し、「協働のガイドライン」を提示します。
「参加型研究評価システム」の評価基準案を策定したうえで、いくつかの地域での科学者とステークホルダーの事例について、メンバーからの評価意見を募って相互評価の試行を行います。

2011 年度

若手研究者などが地域で生活しながら研究を行う短期滞在型研究を試行し、「レジデント型研究者」の養成を始めます。
参加型研究評価や短期滞在型研究の試行結果を踏まえて、「協働のガイドライン」と「参加型研究評価システム」の改定を進めます。

2012 年度

ネットワークの持続的な活動に向けて、運営体制の整備や活動内容の改善を進めます。

地域環境学ネットワーク設立発起人 (2010年3月31日)

あん まくなど 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわ オペレーティング・ユニット所長	澤田 俊明 (有)環境とまちづくり/徳島大学客員教授 (株)四季工房 代表取締役 野崎 進
池田 啓 前兵庫県立コウトリの郷公園研究部長	清水 万由子 長野大学 研究員
伊呉田 宏正 酪農学園大学環境システム学部 講師	白川 勝信 芸北 高原の自然館 主任(学芸員)
井田 宏之 社団法人エソシカ協会 事務局長	洲崎 燈子 矢作川森の研究者グループ共同代表
北海道スローフード・フレンズ帯広 役員	豊田市矢作川研究所 主任研究員
上田 篤 豊岡市コウトリ共生課 課長	須藤 明子 株式会社イグレット・オフィス 専務取締役
内田 しのぶ (財)北海道環境財団 釧路湿原自然再生普及 行動計画ワンダグリンド・プロジェクト担当	園 博明 環境ネットワーク 代表
大西 秀之 同志社女子大学 准教授	高橋 一秋 長野大学 准教授
垣花 薫 慶良間海域保全連合会 会長	高橋 大輔 長野大学 准教授
垣花 武信 (株)21 ザマミ社長	永野 昌博 十日町市立里山科学館越後松之山「森」の学校 キョロロ主任学芸員
前 慶良間自然保全環境会議 会長	中村 浩二 金沢大学環日本海域環境研究センター長 / 教授
前 座間味村商工会 会長	里山里海サブグローバル・アセスメント 科学評価パネル共同議長
沖繩県八重山支庁農林水産整備課 普及員	新妻 弘明 東北大学 教授
徳島県立高丸山千年の森	天栄村 EIMY 湯本プロジェクト / 川崎-仙台新ストープの会
かみかつ里山倶楽部	矢作川水系森林ボランティア協議会 代表
多賀町立博物館 学芸員	丹羽 健司 比嘉 義視 恩納村漁協 指導員
徳島大学 教授	牧野 厚史 滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員
白保魚湧く海保全協議会 事務局長	松田 裕之 横浜国立大学 教授
WWF サンゴ礁保護研究センター センター長	間野 隆裕 豊田市矢作川研究所 総括研究員
NPO 法人黒潮実感センター センター長理事	宮内 泰介 北海道大学 教授
高知大学客員准教授	三輪 信哉 大阪学院大学 教授
矢作川森の研究者グループ共同代表	家中 茂 鳥取大学 准教授
東京大学愛知演習林 講師	柳 哲雄 九州大学応用力学研究所 所長 / 教授
北海道大学 教授 / 社団法人エソシカ協会 会長	山本 信次 「海城環境再生(里山創生)社会システムの構築」研究代表者
北海道和種馬保存協会 会長	湯本 貴和 岩手大学農学部附属寒令フィールドサイエンス教育研究センター 准教授
長野大学 教授	総合地球環境学研究所幹部 教授
	多様性領域プログラム主幹

地域環境学ネットワーク設立発起人をご推薦ください

地域環境学ネットワークの趣旨に賛同し、設立発起人としてネットワークの活動に参加していただける方をご推薦ください。
お問い合わせは、下記連絡先までお寄せください。

長野大学環境ツーリズム学部 佐藤 哲 メールアドレス: sato@nagano.ac.jp
〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1 プロジェクト室 TEL&FAX: 0268-39-0202
ウェブサイト: http://www2.nagano.ac.jp/sato/network_localscience/index.html

地域環境学ネットワークの設立は、科学技術振興機構・社会技術研究開発センターの「科学技術と社会の相互作用」研究開発プロジェクトに採択された「地域主導型科学者コミュニティの創生」プロジェクト(研究代表者:佐藤哲・長野大学教授)の一環として行なうものです。

科学技術振興機構(JST)・社会技術研究開発センター(RISTEX)

研究開発プログラム「科学技術と社会の相互作用」

地域主導型科学者コミュニティの創生

地域環境学ネットワーク設立にあたって

地域環境学ネットワークとは？

地域環境学ネットワークは、多様な地域の環境問題に取り組む地域社会のステークホルダーと科学者がお互いに学びあい育てあう、全国的なネットワークです。

地域社会のみなさんが「この自然を守りながら生活したい」「地域の環境問題を何とかしたい」と思ったとき、科学者(研究者)は良きパートナーとなりうるでしょうか？

科学者は高い学術的価値を持つ研究成果をあげることでなく、社会課題解決への貢献が求められています。この期待に応えられているでしょうか？

私たちは、問題解決の担い手である地域社会のステークホルダーのみなさんの良きパートナーとなる科学者を育て、持続可能な地域社会づくりをすすめるため、地域環境学ネットワークを設立します。地域環境学ネットワークは、地域社会と協働しながら研究を行い、地域環境問題の解決に資する研究成果を生みだす科学者を応援します。

地域環境学ネットワークの特徴は？

科学者とステークホルダーのつき合い方「協働のガイドライン」

地域の視点から研究を評価する「参加型研究評価システム」

地域環境学ネットワークには、全国から問題解決型研究に取り組む科学者と、地域社会のステークホルダーが参加し、情報交流をつうじて科学者と地域の協働のあり方をさぐります。

科学者と地域社会のステークホルダーが、地域の現場でどのように付き合っていけばよいかを示す「協働のガイドライン」を共有し、よりよい指針へと改善していきます。

地域の問題解決に役立つ研究かどうかを、地域の視点と科学の視点の両面から評価する仕組みである「参加型研究評価」を行います。インターネット上で多様な事例についての情報を集約し、ワークショップの開催などを通じて、メンバー間の情報交流と相互評価をすすめます。

地域環境学ネットワークに参加すると？

地域環境学ネットワークに参加する、全国の多様な問題解決型研究・地域研究の事例や人材との交流を通して、取組改善と研究展開に必要な様々なリソースが得られます。

地域社会のステークホルダーにとっては、全国から参加する多様な地域のステークホルダーと科学者との交流から、ご自身の取り組みの改善に役立つアイデアが得られます。また、問題解決型研究に取り組む意欲を持つ科学者との交流により、科学者との協働による問題解決の一步を踏み出すことができます。

問題解決のノウハウや科学的知識、地域外の人的ネットワークを得ることで、取り組みを客観的に評価しあい、着実に取組みをステップアップさせていくための基盤を得ることができます。

科学者にとっては、従来の学会では評価されにくい「問題解決への貢献」という研究の社会的価値を、地域社会の視点と科学的視点の両方から評価することが可能になり、さらなる研究の発展に向けたヒントが得られます。

研究計画の策定、フィールド調査の実施、研究論文の執筆、研究成果の発表といった一連のプロセスにおいて、多様な地域から参加する科学者とステークホルダーからの評価および協力を受けることができます。

地域環境学ネットワークは、地域社会の問題解決に貢献する科学者とステークホルダーのコミュニティを目指します。

「協働のガイドライン」

科学者とステークホルダーが共有すべきルールを明らかにします。

- ・ 地域環境の変化に応じた意思決定に必要な科学的知見を蓄積している
- ・ 問題解決に必要な知識とは何か？を知るためのコミュニケーションがある など

地域社会のステークホルダー

地域住民や、地域環境問題に関わる当事者、問題解決の実際の担い手となるみなさん

例) 豊岡市コウノトリ共生課
白保魚湧く海保全協議会
かみかつ里山倶楽部

「参加型研究評価システム」

地域社会の問題解決に貢献する研究の意義を、ステークホルダーの視点から評価し、よりよい協働に向けて課題を明らかにします。

- ・ 地域の自然と社会の変化を踏まえ、地域の将来を決める意思決定に役立つ研究内容か
- ・ 地域社会のステークホルダーと科学者が多様な活動を認め合いながら、問題解決に向けて前進しているか

など

科学研究に取り組むステークホルダー

地域住民や地域企業といったステークホルダーが、地域の環境・資源を管理するために、あるいは経営戦略として科学研究に取り組むみなさん

例) 千里リサイクルプラザ市民研究員
琵琶湖博物館の市民調査
恩納村漁協

個別課題のネットワーク

各地域に共通する地域環境問題について、地域ごとのネットワークを相互に結合しながら個別課題の解決を目指すネットワーク

例) 全国草原再生ネットワーク
森を持つ大学ネットワーク

地域環境学ネットワーク

多様な事例についての情報共有

学びあい、育てあうネットワーク

地域ごとの問題解決ネットワーク

地域社会の主要なステークホルダーと科学者が協働して地域課題の解決に向けて協働するネットワーク

例) 徳島県高丸山千年の森づくり
八重山漁協を中心とした海洋保護区(MPA)
慶良間諸島ダイビング業者による海域保全

レジデント型研究機関

地域社会の一員となり、地域社会のステークホルダーと協働して課題解決に貢献しうる研究を行う研究機関と、そこで研究に取り組む研究者

例) 兵庫県立コウノトリの郷公園
WWF サンゴ礁保護研究センター
芸北 高原の自然館
十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ
能登半島 里山里海自然学校
NPO 法人黒潮実感センター
豊田市矢作川研究所

「レジデント型研究機関」とは

主役は地域社会であることを意識しながら、地域社会が課題解決のために活用できる科学的知見を求めて幅広い研究を行う研究機関・研究者のことを「レジデント型研究機関・研究者」と呼びます。地域社会の一員となり、地域に根付いた知識も活用して問題解決型研究に取り組んでいます。

